

茶室における和紙文化2.0

# The sun sets and rises

～ 湊紙にシルクロードをうつす～

山本 柱 Hashira YAMAMOTO

会期 2024年3月26日[火]～31日[日] 6日間  
10時～18時

会場 さかい利晶の社 三千家茶室(西江軒/風露軒/得知軒)

観覧料 無料(本館をご観覧の際は別途入館料が必要)

令和5年度堺市文化芸術活動応援補助金の採択を受け実施しています。

SAKAI  
RISHO  
NO  
MORI

さかい利晶の社

Sakai Plaza of Rikyu and Akiko

茶室における和紙文化2.0

～湊紙にシルクロードをうつす～

本展示は、茶室に用いられる湊紙みなとがみの和紙文化を伝える展示を行います。

今回の主題は、古く東西の交流路である「シルクロード」です。中国で発明された紙の製法は、シルクロードを通り、イスラム文化圏からヨーロッパへと西方へ伝搬していきました。

一方、日本には7世紀頃に紙の製法が伝わった後、植物の楮や三桠などを用いる和紙として発展してきました。この和紙は、茶室にも多く用いられています。例えば、茶室の腰壁に貼る湊紙もそのひとつです。古く堺の湊地方で漉かれていたことから、湊紙として名を残しています。本企画では、湊紙を用いた掛け軸、卷子本、額を茶室に展示します。

The sun sets in the west



遠い昔、人びとは中国から伝来した紙を、日本独自の素材や製法で和紙として発展させてきました。楮、三桠、雁皮の和紙を鶏卵紙にして、シルクロードで見たものを表現しました。まだ見ぬ景色を求めて、一緒に旅立ちましょう。[鶏卵紙：写真の古典技法のひとつ]

The sun is above us



インターネットで写真や動画は見たことがあっても、実際に触って感じたことはないかもしれません。シルクロードの旅の過程で手に入れたモノを見て、直接旅を感じてみませんか。写真と共に展示された手書きのメモや拾った石など、一つひとつは取るに足りないものですが、よく観察すると、大きな気付きを得ることができます。あなたも一緒に旅の断片を見つけてみませんか？

The sun rises in the east



アナログからデジタルへ、写真の表現はここ数十年で大きく変化しました。時間の経過しても変わらないデジタルと変化するアナログ、相反する媒体を一つの世界の中で融合させるとどうなるのでしょうか。ここでは、シルクロードを陸路で東西横断した各地の景色を絵巻物にしてみました。シルクロードをまたがる国々の日常をつなげて見ると、また違った世界を見ることができるかもしれません。

お茶会のお誘い

3/30(土)にお茶会をします。  
(時間はInstagramにて告知)  
ペルシア絨毯の上で、  
お茶一服差し上げます。



古典写真作家の若林久未来作品の  
展示もご覧いただけます。  
作家HP：<https://art-kumi.com>

[これまでの展覧会]

2022年 侘び寂び 茶室における和紙文化～湊紙を用いた写真表現～  
さかい利晶の社 三千家茶室(西江軒/風露軒/得知軒)

山本 柱 Hashira YAMAMOTO

1978年生まれ、大阪府堺市出身。博士(工学)化学工学や機械工学を学び、ガラス関連の企業において環境に関する研究開発業務に従事する傍ら、学生時代から続ける旅と写真をライフワークとしている。旅は陸路と海路によるルートが一筆書きとなる道を作ることを旅のスタイルとしている。訪問先の国々においては、各国が抱える環境課題をその場観察するために現地を訪問し、問題を考察している。2020年1月にはユーラシア大陸を陸海路で横断を達成している。また、写真はソラリゼーションやアルビューメンプリント(鶏卵紙)などの古典的技法を得意とし、撮影もさることながら「写真の技法」を作ることにこだわった作品を発表している。

WEBサイト



さかい利晶の社

Sakai Plaza of Rikyu and Akiko

〒590-0958 大阪府堺市堺区宿院町西2丁1-1  
[www.sakai-rishonomori.com](http://www.sakai-rishonomori.com)

公共機関でお越しのお客様へ  
最寄駅：[阪堺線 宿院駅]より徒歩1分  
[南海高野線 堺東駅]よりバスで約6分  
[南海本線 堺駅]より徒歩で10分/バスで約3～5分  
最寄りバス停：[宿院]下車徒歩1分

